

世界史 問題 I

1904年にはじまった日露戦争はイギリスから見てどのような戦争であったか。図も参考にしながら、以下の語句をすべて用いて、350字以内で述べなさい。(語句の順序は自由に変えてよい。語句には下線を引くこと。句読点もそれぞれ1字に数える。)

三国協商 三国同盟 日英同盟 英露協商

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

注)清水勲監修『ビゴーがみた世紀末ニッポン』(平凡社, 1996年)より転載。転載にあたり図中の文章を一部翻訳して組み込んだ。

世界史 問題Ⅱ

次の文章(A), 及び史料(B)と(C)をよく読んで, 下記の問題に答えなさい。

(A)

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

(桜井万里子『古代ギリシア人の歴史』, 刀水書房, 2025年,
270-271ページ, 一部改)

(B) トウキュダイデス『歴史』第6巻18章

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

(トウキュダイデス(城江良和訳)『歴史 2』, 京都大学学術出版会,
2003年, 114～116ページ抜粋, 一部改)

(C) トウキュダイデス『歴史』第7巻87章

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

(トウキュダイデス(城江良和訳)『歴史 2』, 京都大学学術出版会,
2003年, 316ページ抜粋, 一部改)

問 1 文章(A)の下線部①について、紀元前 5 世紀の前半に「われわれの支配権」が確立されるにいたった歴史的な展開を説明しなさい。

問 2 史料(B)は、紀元前 415 年に文章(A)の下線部②で触れられているシチリア遠征の是非がアテネの民会で議論された際に、主戦派のアルキビアデスが市民たちに対して行ったとされる演説の一節である。また、史料(C)は、紀元前 413 年にそのシチリア遠征が失敗に終わったことについて、トゥキユディデスが自らの感慨を述べた一節である。これらの史料を踏まえて、文章(A)で著者が下線部②のように述べる理由を説明しなさい。

問 3 トウキユディデスが『歴史』を書いたのは、今から 2400 年以上も前のことである。にもかかわらず、それが古典として現在なお読み継がれている理由を、文章(A)、及び史料(B)と(C)を参考にしながら述べなさい。

世界史 問題Ⅲ

次の文章は前漢時代後期の中国西南辺境経営に関する史料の和訳である。よく読んで、下記の問題に答えなさい。

成帝の河平年間(BC 28 ~ 25), 夜郎王興と鉤町王禹・漏臥侯愈^aらはたがいに兵を挙げて攻め合った。牂柯太守^bは兵を徴発して興らを処刑したいと要請したが、議者は道が遠く、撃つことはできないとして、太中大夫^cで蜀郡出身の張匡を節^dを持たせて派遣し、和解させようとした。興らは命令に従わず、木を刻んで漢の役人^{かたど}を象り、道端に立ててそれを射た。杜欽が大將軍王鳳に説いて言った。「太中大夫の張匡は蛮夷の王侯を和解させようとしたが、王侯は詔を受けながらすぐにまた攻め合い、漢の使者を軽んじ、国の威光を畏れておらず、その効果のほどは明らかです。おそらく議者は怖じ気づいて再び和解させようとして、太守が動静を観察して、変化があればこれを上聞するということになるでしょう。そうなれば、また時間が空費され、その間に王侯はその衆を狩り集め、謀略を固め、仲間を増やし、互いにその怨みにたえず、必ず互いに滅ぼしあうことでしょう。(中略)屯田してこれを守るとしても、費用は計りしれません。むしろ彼らの罪悪がまだ成されず、漢が誅罰を加えるとまだ疑っていないうちに、ひそかに近くの郡の太守・都尉^eに兵馬を訓練させ、大司農^fに予め穀物を調達してそれを要害の地に蓄えさせ、職に任える太守を選んで赴任させ、秋の涼しい時期に進入させ、もっとも無法な王侯を処刑すべきです。もしもその地が不毛の地であり、その民が無用のものであり、聖王がそのために中国を疲弊させるべきではないというのであれば、郡を廃してその民を放棄し、その王侯と断絶して二度と通じないようにすべきです。もし先帝が立てた累代の功績をこわしてはならぬと考えるなら、その萌芽のうちに早期にこれを断ち切るべきであり、形を成してから軍を出すことになると、万民が被害を受けるのです。」

(『漢書』卷九十五 西南夷兩粵朝鮮伝より)

注 a 夜郎・鉤町・漏臥はそれぞれ今の貴州省西部・雲南省東南部・東部にあった異民族政権。

b 牂柯郡は上記の地域(貴州省～雲南省東部)に漢が設置した郡。太守は郡の長官。

c 太中大夫は皇帝の命に応じて集議に参加し、使者として地方に派遣される官。

d 節とは、君主の命を受けた印として使者に授けられるもの。

e 都尉は太守を補佐し、郡内の武職や兵卒を掌る官。

f 大司農は、王朝の財政を掌る官。

問 1 下線部①について、

ア) このような、異民族政権の首長に爵位や官職を授ける統治方法を何と呼ぶか答えなさい。

イ) この統治方法はどのような目的で実施されるのか、簡潔に説明しなさい。

問 2 下線部②の大將軍王鳳は、成帝の母である王政君(先代元帝の皇后)の弟である。

ア) このような皇后・皇太后の親族のことを何と呼ぶか答えなさい。

イ) このような立場の人々がなぜ政権に介入し、実権を握ることができたのか、簡潔に説明しなさい。

ウ) 王鳳や王政君の甥にあたり、儒学を熱心に学び、さらに多くの儒学者をブレンとして台頭し、宰相にまで上り詰めた人物の名を答えなさい。

エ) その人物がのちに漢王朝を篡奪して建てた王朝の名を答えなさい。

問 3 下線部③について、

ア) 中国前近代における「屯田」とはどのような制度で、何を目的として実施されたものか、簡潔に説明しなさい。

イ) ここでは「費用は計りしれません」と述べているが、なぜそのような事態が生じるのか考察しなさい。

問 4 下線部④について、

ア) ここで「先帝」と呼ばれている、積極的に対外遠征を実施し、新たな郡県を設置した皇帝は誰か、答えなさい。

イ) その皇帝の時期に漢朝が進出した地域と、その地に設置された郡(のうち任意の一つ)の名を、答案紙の例にならって答えなさい。

問 5 この史料の中で、大將軍王鳳の幕僚・参謀であった杜欽は中国西南辺境に置かれていた郡の廃止や、その地の異民族(文中の「蛮夷」との断絶を進言しているが、この時期になぜこのような考え方が出てくるのか、歴史的背景をふまえて説明しなさい。

世界史 問題IV

次の文章をよく読んで、下記の問題に答えなさい。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

(弘末雅士「近世東南アジア社会の展開」『岩波講座 世界歴史 12 東アジアと東南アジアの近世 15～18世紀』, 岩波書店, 2022年, 62-63ページ, 一部改)

問 1 空欄(a)～(c)を埋めなさい。

問 2 空欄(1)～(3)にはそれぞれの国を流れる主要河川の名が入る。空欄を埋めなさい。

問 3 下線部①について、清朝の都はどこにあったか、またその宮城名は何と言ったか、答えなさい。

問 4 下線部②について、アユタヤで信仰されていた主要な宗教は何であったか、答えなさい。

問 5 下線部③について、バゴー(ペゲー)はビルマ(ミャンマー)の南部に位置する。当時、その地域に多く住んでいた人々は何と呼ばれたか、答えなさい。

問 6 この文章の内容を参考にしながら、18世紀～19世紀前半の東南アジアにとって、中国や中国人との関わりがどのような意味を持っていたかを説明しなさい。